

みやづ miyazu Wd わ ~環~

Vol.04
2018年3月

代表幹事あいさつ

みやづ環ネットワーク

代表幹事 大村 利和

みやづ環ネットワークが設立され今年で5年目になります。この5年の間にも世界の平均気温は3年連続で最高値を更新し、2016年には統計開始以来、最も高い値を示し、日本では大雨の頻度が年々増加しています。

そうした中、2015年12月に発効されたパリ協定では「産業革命以降の地球の温度上昇を2℃未満に維持すること、そのために21世紀後半には世界の温室効果ガスの排出量をゼロにすること」を目標とし、国連では「このままでは世界が立ち行かない」という国際社会の強い危機感を背景に、2015年9月に「持続可能な開発目標（SDGs…SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS）」が採択され、世界を変えるための17の目標が設定されました。

これらは世界的な、大きな他人事のような話に感じるかもしれませんが、実は日本でも内閣府がこのSDGsをもとに「地方創生に向けた自治体SDGs推進事業」として、各市町村レベルで取り組むように発表するなど、宮津にとっても非常に身近な問題でもあるのです。

みやづ環ネットワークではこうした世界的なパラダイムシフトを自分事として捉え、宮津の持続可能な未来へとつながる活動をしていきたいと考えています。



「みやづ環ネットワーク」は宮津市が取り組む「みやづ環の地域づくり行動計画」を実現、支援することを目的に、平成25年8月に「みやづ環の地域づくり推進ネットワーク」として市内の35の団体及び個人を会員として設立されました。活動内容は宮津市の行動計画に基づいた循環型エネルギーの普及や環境教育、エコロジーマン暮らし方の提言活動などに取組んできました。その後、宮津市の行動計画に限らず、この地域をとりまく社会環境の変化に柔軟に対応できる自立した組織として、平成29年4月より「みやづ環ネットワーク」と改名し、低炭素型で心の豊かさを実感できる「住んでよし」のまち、宮津の実現を目指して活動しています。

○こども未来ファンド事業

「ソーラーハウス工作体験」

冬休みが始まってまもなくの12月26日
宮津市内の小学生高学年を対象したソーラーハウス工作教室を実施しました。教室では座学としてクイズをしながら地球温暖化や再生エネルギーについて学び、実習として牛乳パックを利用したソーラーハウスを作りました。蛍光灯の明かりで蓄電したハウスが教室を消灯すると同時に点灯した際に一斉に灯りがともり、まるで町並みの風景のようで児童からも歓声が上がっております。今後もこのような楽しく学べる機会を作っていくたいものです。



講師の根岸氏（京都府地球温暖化防止活動推進センター）からコメントをいただきました

今回の工作教室は、『未来を担う子どもたちに太陽光発電などのくりかえし使えるエネルギー（再生可能エネルギー）をよく知ってほしい、より身近に感じてほしい』という思いでみやづ環境ネットワークさんからの依頼を受け講師を引き受けました。

工作前に行った再生可能エネルギーのクイズや実験では、多くの子が太陽光発電について知っており、さらに熱心にノートに書いてくれる子までいたのには驚きました。

工作では、「くりかえし使えるエネルギーのある未来の街」をみんなで作ることを目標に、牛乳パックで太陽光発電のある家をそれぞれが作り、持ち寄ることで未来の街を作ってもらいました。子どもたちが家を作っていく際に、宮津の冬らしく煙突やツララのある家を熱心に作っている姿が大変印象に残りました。

たった数時間ではありますが、くりかえし使えるエネルギーを少しでも身近に感じてもらえたら嬉しいです。

○視察見学会

平成29年11月7日、午後半日をかけて宮津市由良地区の視察見学会を行いました。由良地区にはメガソーラー発電所やオリーブ農園があり、先進的に地域振興が行われています。この見学会は、会員以外の市民にも参加を呼びかけたものであり、合計約20名での見学会となりました。

由良地区には、合計3,119kWにもなる、丹後由良駅裏の荒廃地を活用した太陽光発電施設があり、現地を実際に見学するとともに、設置者である宮津太陽光発電合同会社様より施設についての説明や設置に至



る経緯などのお話をいただき、再生可能エネルギーへの理解を深めることができました。

設置にあたっては地元との調整が不可欠であり、その時の詳細や苦労話などを由良自治連合会長様からお話いただきました。由良地区では畑などに被害が出る有害野生鳥獣に困っており、鳥獣の住処となる駅裏の荒廃地が整備されるのであれば好都合だと合意に至りました。設置のためには、土地所有者の承諾を得る必要がありました。自治連合会長を中心とした有志数名で承諾を集められました。土地所有者の区分を明確にできたことや、由良を離れてしまっ

ている方への現状報告など、思わぬメリットもあったようでした。

また、由良地区ではオリーブの栽培が先進的に進められています。由良オリーブを育てる会長様のお話によると、近年はオリーブオイルの需要が高まっているようですが、ほとんどが輸入物です。そんな中、由良オリーブを育てる会では、地域の退職者を中心とした16名がボランティアで栽培をされています。オリーブは、寿命が長く有害鳥獣被害が少ないなど栽培の利点や、木1本あたりからの収穫量が少ないことや搾油作業の人員不足などの課題点も勉強することができました。



○ピンとポイント事業

【持続が厳しい現状】

いま日本は65歳以上を一律に高齢者としています。しかし政府はこれを見直し、「エイジレス（年齢にこだわらない）社会」を目指そうとしています。その背景には高齢者の健康寿命が延び、働く意欲が高まっていることありますが、一番の理由は急速に進む少子高齢化に歯止めがかからず、このままでは社会保障制度の維持が困難で、高齢者にも「支えられる側」から「支える側」に回ってもらいたいという狙いがあります。

一方、目を世界に転じると、いま地球上では至るところで異常気象が頻発し、これには、地球温暖化が大きく関わっているといわれています。では、どれだけ温暖化したかというと、産業革命前より0.85℃上昇しただけです。しかしこれが地球にとっては多大な負荷になっているのです。そこでパリ協定ではこの気温の上昇を「2℃よりかなり低く」できれば「1.5℃未満に」抑えることが決められました（2015）。1.5℃というのはいま既に浸水被害に苦しむ南太平洋の島国などが強く求めた数値です。ところが国連の気候変動に関する政府間パネル（IPCC）が最近まとめた特別報告書（案）によると、いまのペースでは2040年代には1.5℃に到達し

てしまうということで、今の私たちの生活スタイルに警鐘を鳴らしています。

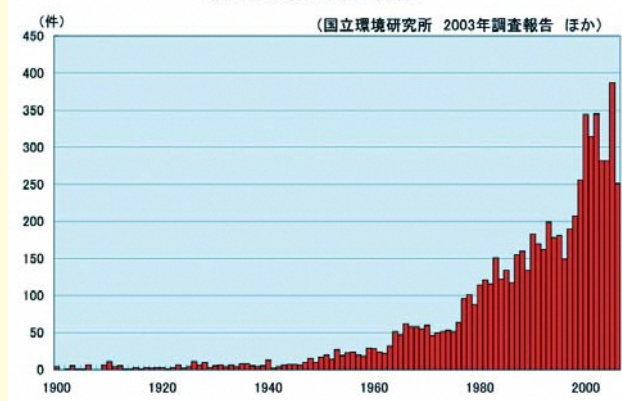
【持続する社会を目指して】

私たちは65歳以上の高齢者を対象に、ピンと生き生き宮津ライフを目指し、①自助・共助でピンと元気に長生きする暮らし方、②エネルギー・資源を大切に持続可能な暮らし方、③地元を元気に明るくする暮らし方、を訴えています。そしてこれまでに7回のピンとポイント抽選会を実施してきました。日本の超高齢社会、また温暖化が深刻さを増す

なか、次世代を担う自分の子供、孫たちのため、少しでも住みよい社会を残せるよう、高齢者にぜひ健康で環境に優しい生活を送って欲しいと願うからです。そしてその豊かな人生経験や知恵を地域のために活かして欲しいと願うからです。

異常気象の発生件数

（国立環境研究所 2003年調査報告 ほか）



<編集・発行>

みやづ環ネットワーク

事務局

宮津市企画部企画政策課環境交通政策係

〒626-8501 京都府宮津市字柳縄手345-1

tel.0772-45-1609

fax.0772-22-8480

◎会員を募集しています

環境に関心のある方、これからのまちづくりについて何かしてみたい方、私たちと一緒に「低炭素型で心の豊かさを実感できる「住んでよし」のまち・宮津」の実現に向けて活動しませんか。みやづ環ネットワークでは、個人、事業者、団体を問わず、随時会員を募集しています。興味を持たれた方は、事務局までご連絡ください。